

災害に備える

昨年三月十一日に発生した東日本大震災や近年増加している異常気象による自然災害など、災害は突然私たちに振りかかってきます。九月一日は「防災の日」です。今月号では、災害の体験談などを通して災害に対する備えの重要性を再認識しましょう。

当時の台風被害を知る人——



鈴木一良さん（新宿）

昭和五十六年の台風十五号は、私がかつて経験したことがないほどの大雨でした。二日間くらい雨が降り続いていました。今、思い出しても本当にすごい雨でした。川も氾濫して、役場前のガードレールが隠れるほどで、水が引けるまで、とても道路を歩けるような状態ではありませんでした。

消防団に所属していたので、川の水が引けてから消防車で警護に当たったのを感じています。

その当時は、まだ河川改良がされていなくて、川は幅が狭く、蛇行していました。さらに、降り続く雨の影響で川沿いの土手に生えていた木が川をせき止めるように倒れました。それによって、さらに被害が大きくなったのだと思います。

河川改良がされる前は、大雨が降るたびに川が氾濫して畑などが水没していましたが、改良がされてからは、めったに氾濫するようなくなりました。少しずつ河川改良が進んで、水害も少なくなりましたね。



浸水被害を受けた新宿および道少田地内

台風15号による役場前の鮫川氾濫(昭和56年8月)



学校、家庭、地域が共通の認識を持って 防災に取り組んでいかなければならない。

災害はいつ起こるか分かりません。被害を最小限に抑えるために、私たちは何ができるのか。角田稔分署長に災害に対する知識や心構えなどについて話を伺いました。



棚倉消防署鮫川分署
角田 稔分署長

大震災を経験して 防災意識も高まっている

昨年の東日本大震災は肌で感じたことなので、防災に対する意識も変わったと思います。今後の対策としては転倒防止、落下防止、そういつたことで自分の身を守るようにしてください。以前は「地震だ、火を消せ」と言われていましたが、新潟の地震以降、考えが変わって「身の安全が第一」ということで広報をしています。新潟の地震の場合は、地震が発生して慌てて外に出たことよって、けがややけどをしたケースが多くありました。

東白川郡では、東日本大震災で大きな被害はありませんでしたが、震災発生時の高速道路の光景は異様で

災害時の機転が 命を救う

鮫川村の場合、日常的に考えておかなければいけない災害は、やはり地震や火災です。

災害は忘れた頃にやってくる言いますので、常に訓練をすることが大切です。しかし、避難訓練と言ってもパターンが決まっています。火災の発生場所や避難場所がすでに決まっている訓練がほとんどです。東日本大震災では、避難場所になっていた学校に留まった生徒と先生の多くが命を落としたというケースがあ

地域住民の要望と 消防団が伝えたいこと、 双方の意見交換が必要。



鮫川村消防団
水野 一美団長

消防団は普段、火災予防の警護活動や各種の教育訓練を行っています。地域社会の安全確保に最大限の努力をすることが消防団としての大きな役割です。

東日本大震災をきっかけに、地域の防災計画の見直しをしていかなければならない状況にあると思います。あとは、村で各戸に配布したハザードマップをどれだけの人が見ているかを考えると、少ないのではないかと感じています。このハザードマップを見れば、避難場所や災害時の行動など、ほとんどのことが分かるようになっていきます。各家庭で改めてハザードマップを見直して、活用してもらいたと思います。さらに、大字ごとの防災対策の確立ということで、各行政区長さんを先頭にして防災体制ができていますが、それを住民がきちんと把握する必要があります。

住民が消防団に言いたいこと、さらには消防団が住民に伝えたいことを双方で意見交換をしていかないと、これからの防災対策は進まないと思います。きっと住民の中にも「こういう場合は、こうしてほしい」というような消防団に対する要望はあるはずですが、これを住民から引き出していかなければいけませんね。

自然災害は突発的に起こるものなので、住民と消防団と一緒に訓練をしていかなければいけません。地域に住んでいる人が一番その地域を把握しているので、その協力が必要です。

東日本大震災のときは、すぐに役場と連絡を取り合うことができ、連携を取れたと感じました。当時、消防団は村内各地の被害状況の調査をしました。電気や暖房が切れたりしたので、そちらの対応もしました。

「安心」「安全」は、結論が出るものではありません。「これで絶対に安心だ、安全だ」ということはないのです。先が見えない話をしていかなければいけないので、大変ではありますが、行政と消防署、消防団、地域が連携を取れるように、災害に備える必要があります。

りました。先生、子どもたちの機転で、命が助かるか助からないかという大きな差が出ます。実際に、避難訓練のパターンを決めずに訓練を行う学校もあります。

日頃から家族で 話し合う場を

家庭では、少なくとも三日分の飲料水や情報収集するためのラジオ、



東日本大震災による被害：
①倒壊した建物/②土砂崩れ/③陥没した道路

応急手当するための簡易の救急セットなどをバックに入れておくなどの備えをしておきましょう。さらに、家庭での団らんのなかで、家族で災害時の行動などについて話し合うようにするといえます。例えば、災害時、どこに避難するか。そういったことを家族の中で決めて、突然の災害に備えてください。日常的に取り組むことで、実際の災害発生時にも確かな対処ができます。

家族みんなで話し合おう。 そして、防災意識を持ち続ける。

今回は、赤坂西野在住の薄葉家の皆さんに「家族防災会議」を開いてもらい、実際に災害時における家族内の約束事などについて話し合ってもらいました。



薄葉正勝さん

大生さん

真澄さん

和奏さん

災害時、避難するために備えておくものは？

正勝 九月一日は防災の日ということで、防災について考えてみよう。まず災害には何があるかな。

和奏 地震、土砂崩れ。

大生 地震。

正勝 災害が起きたときどうする？

大生 避難する。

正勝 どこに避難する？

大生 えーと、安全な所。

正勝 そうだね。安全な場所に逃げる

るときには、何が必要だろう。

着のみのままに逃げるだけ

だと、その日はいいかもしれない

けれど、もし、避難所生活を

することになったらどうだろう。

例えば、東日本大震災の日とは

ても寒かったよね。

大生 温まるものとかが必要な

正勝 それも必要だね。そういうと

きのために、必要なものをみん

なで考えて準備しておこう。何

が必要かな？

大生 飲料水。あと、懐中電灯。着

替えの洋服も。

真澄 ほかに大生だったら、何を持

つて逃げる？

大生 思い付くのは、カードゲーム

とお金、食糧かな。

正勝 最低限必要なものを選んで避

難するようにしよう。

大生 じゃあ、食糧だ。

正勝 電気がなくなればテレビも

見られないね。そうすると災害

の情報が分からない。

大生 携帯電話で調べればいいんじ

非常用持ち出しセットは
みんなが分かる場所に

正勝 準備した非常用セットは、災

害のときに持ち出せるように、

みんなが分かる場所に置いてお

かなきゃいけないね。

真澄 避難する時に、すぐ持ち出せ

るように玄関先に置いておくの

がいいかもしれないね。

正勝 非常用セットは周りに柱が多

い場所や家が倒壊しても取り出

しやすい場所がいいらしいよ。

和奏 玄関に引っ掛けておけばいい

んじゃない。

正勝 納戸はどうかな。

大生 もし、後ろの山が土砂崩れに

なったら、納戸から取り出せな

くなっちゃうよ。

正勝 じゃあ、やっぱり玄関が一番

いいかな。

大生 分からない所に置いておいた

ら、持つていけないかもしれない

からね。

避難場所の確認と

家族での約束事

真澄 ところで、避難場所ってどこ

だろう。

大生 集合所かな？

和奏 こともセンターじゃないかな。

正勝 村が作った防災ハザードマッ

プが各家庭に配布されてるみた

いだよ。避難場所を確認してお

かなきゃいけないね。

真澄 ホームページでもハザードマ

ップが見られるといいよね。

正勝 西野区の場合は、こともセン

ターが避難場所だね。

真澄 家族みんながそろっていれば

いいけど、お父さんやお母さん

が仕事で、和奏と大生の子ども

二人だけのときもあるかもしれないよ。

電話もつながらなくな

っちゃうし、連絡が取れないね。

東日本大震災のときはみんなパ

ラバラだったもんね。

正勝 そういうときは、最終的に集

まる避難場所を決めておこう。

とりあえず、こともセンターを

目指して避難するようにしよう。

防災ハザードマップ

避難場所の確認は
できていますか？



村では、住民の皆さんがすばやく安全に避難するために、一昨年の10月に「鮫川村 防災ハザードマップ」を作成し、各戸に配布しました。ハザードマップには、各地区の避難場所や避難所、村内の危険箇所、防災のポイントなどが記載されています。災害から身を守るために、家族で確認をしてみてください。もし、配布したハザードマップをなくしてしまった場合は、役場総務課総務係へご連絡ください。

やない？
正勝 でも、東日本大震災のときは携帯電話が使えなかったよね。
大生 それなら、ラジオだ。
正勝 そうすると乾電池も必要だね。いざというときに持ち出せるようにまとめて準備しておくかなくちゃいけない。今はそういう非常用持ち出しセットが売ってるみたいだね。

和奏 非常用セットには、非常食も入ってるんだよね。賞味期限が切れちゃったらどうするの？
真澄 賞味期限が切れる前に、味見をしてみるとか。防災の日に食べてみるのもいいね。
非常食は、三日分くらいは用意しておいた方がいいらしいよ。改めて考えてみると、必要なものがいっぱいあるね。

正勝 準備した非常用セットは、災害のときに持ち出せるように、みんなが分かる場所に置いておかなきゃいけないね。
真澄 避難する時に、すぐ持ち出せるように玄関先に置いておくのがいいかもしれないね。
正勝 非常用セットは周りに柱が多い場所や家が倒壊しても取り出しやすい場所がいいらしいよ。
和奏 玄関に引っ掛けておけばいいんじゃない。
正勝 納戸はどうかな。
大生 もし、後ろの山が土砂崩れになったら、納戸から取り出せなくなっちゃうよ。
正勝 じゃあ、やっぱり玄関が一番

いいかな。
大生 分からない所に置いておいたら、持つていけないかもしれないからね。
避難場所の確認と
家族での約束事
真澄 ところで、避難場所ってどこだろう。
大生 集合所かな？
和奏 こともセンターじゃないかな。
正勝 村が作った防災ハザードマップが各家庭に配布されてるみたいだよ。避難場所を確認しておかなきゃいけないね。
真澄 ホームページでもハザードマップが見られるといいよね。
正勝 西野区の場合は、こともセンターが避難場所だね。
真澄 家族みんながそろっていればいいけど、お父さんやお母さんが仕事で、和奏と大生の子ども二人だけのときもあるかもしれないよ。電話もつながらなくなっちゃうし、連絡が取れないね。東日本大震災のときはみんなバラバラだったもんね。
正勝 そういうときは、最終的に集まる避難場所を決めておこう。とりあえず、こともセンターを